

インドネシア水道に係る情報収集 No. 181102W

検索サイト	Google	実施日	2018/11/09	実施者	T.Masuoka
検索方法：「Indonesia Water supply」で検索					
URL: http://harvardpolitics.com/world/jakarta-sinking-how-subsidence-endangers-indonesias-capital/					
標題：Jakarta Sinking: How Subsidence Endangers Indonesia's Capital					
<p>内容： 題目；ジャカルタの地盤沈下：インドネシアの首都の危険性は？</p> <p>ジャカルタの地盤沈下の状況と経緯（沈下対策が進まない状況）について紹介。</p> <p>① ジャカルタは過去 30 年間で最大 4 メートル沈下し、現在、面積の 40%（北側）が海面下であり、そこには 100 万人が居住。今後の年間海面上昇予測；7.5cm/10 年 ⇒沈下の最大原因は深層地下水の過剰揚水</p> <p>② 洪水への対処（真の原因である沈下対策が進まず）の経緯 ジャカルタ政府は地盤沈下対策より洪水対策を優先してきた。</p> <p>○経緯；</p> <p>1) 2007 年以後、防波堤の嵩上げ、運河網の浚渫・拡幅、堤防の補強、遊水池の整備等。</p> <p>2) JCDS（ジャカルタ湾岸保全戦略）2011 年開始；ジャカルタ湾とジャワ海を隔てる大堤防の設置。 ⇒ジャカルタ湾の深刻な汚染を招くということで見直し、2013 年廃止された。</p> <p>3) NCICD（首都沿岸開発総合計画）；JCDS に変わり導入；湾岸保全から湾岸開発へ。 地盤沈下への対応ではなく、洪水を防ぐための開発として、政治利用された。 （ドバイのパームアイランドのジャカルタ版） ⇒現状、贈収賄と汚職のスキャンダルなどの疑いがあるが、ジョコ大統領は Phase A の完成を約束。 しかし、現在開発は中断；大統領の実際の動機は、2019 年の再選への時間稼ぎ。</p> <p>③ プラン B；地盤沈下対策；</p> <p>内容；水道の普及拡大により地下水の揚水をやめ、2035～2040 年に地盤沈下を沈静化。 課題；ジャカルタの水道事業は、民間業者によって運営され、普及率は 60%未満。 水道を使用している人も、水道水が飲用に適さないため、地下水に依存。 市内には 4,000 以上の違法の井戸があり、深層水は清浄で無料であることから、違法であっても、法制度が整っていない為、地下水利用を停止させる事が困難。 ☆政治的には洪水対策が優先されている→ 地盤沈下対策は政治的には、緊急性がない事項と考えられている。</p> <p>④ 政治的課題；</p>					

地盤沈下の問題を解決するのに最も大切なことは、政治的な意思である。

なぜ、政治家の関心が薄いかには理由がある。

理由→地盤沈下の鎮静化のための水道の整備で成果を挙げるには、大規模な投資と、長い年月が必要、しかも最終的に成功する事は難しい。

☆ジャカルタの新しい知事は、期待できるかも知れない。

彼は、ジャカルタは言葉だけでなく、行動においても責任を果たすと語っている。

☆ジャカルタの地盤沈下と洪水の問題は、世界が今後直面する問題となるだろう。

しかし、短期間の政治サイクルは、それを解決するための障害になっている。

備考 ○JCDS ; Jakarta Coastal Defense Strategy

○NCICD ; National Capital Integrated Coastal Development

○ジャカルタの地盤沈下については、過去多数報道され、紹介されてきたが、本記事は政治的に困難な状況に言及している。